

妙勝禪寺は木津川の西薪村にあり。〔酬恩庵と号す〕禪宗にして、開基は大応国師、正応年中に草創し、又一休和尚康正の頃に再興す。仏殿の本尊は釈迦仏を安置す、開山堂には大応国師の像を安置し、方丈には一休和尚の影を安ず。〔存生の時自このみて作らしむ。鬚髪は生身を植るなり〕酬恩菴の額〔方丈に掲る、一休の筆なり〕一休の塔には遺骨を蔵む、又常に携給ひし笠杖あり。〔方丈の庭は佐川田喜六が好む所なり〕八幡宮は当寺の西一町ばかりにあり、此所の地主神なり。〔佐川田喜六の旧庵あり、又、傍に此人の古墳あり〕